

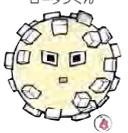
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年4月9日(月)～平成30年4月15日(日)〔平成30年第15週〕の感染症発生状況

第15週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 流行性角結膜炎 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.22人と前週(3.68人)から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(2.89人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.54人と前週(2.70人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

★ロタウイルス★



ロタウイルスの感染に注意しましょう！！

感染性胃腸炎の原因となる病原体は、ウイルスや細菌など様々です。例年、流行のピークとなる11月から1月はノロウイルスによる胃腸炎が多くみられますが、3月から5月にかけてはロタウイルスを原因とする乳幼児の胃腸炎が増加します。

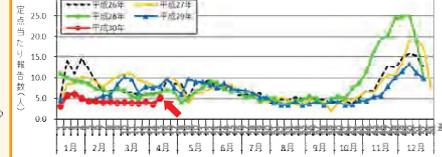
川崎市では、年当初から例年より低いレベルで推移していますが、平成30年第15週(4月9日～4月15日)の定点当たり患者報告数が5.22人と前週(定点当たり3.68人)からやや増加し、特に中原区、多摩区、麻生区の保育園等では、嘔気・嘔吐により欠席する園児が多くなっています。

感染性胃腸炎(ロタウイルス)

- 感染経路
経口感染
 - 潜伏期間
2～4日間
 - 主な症状
下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛など
 - 合併症
脱水、けいれん、肝機能異常など
重症例では、脳症、心筋炎、急性腎不全などもみられる。
- ※けいれんや意識障害などの症状がみられたら、速やかに医療機関を受診しましょう。
- ★重症化予防のためには、任意のワクチン接種も可能です。



川崎市における感染性胃腸炎発生状況(5年間)



学校・保育園等欠席者サーベイランス情報
【嘔気・嘔吐のある保育園児等報告数*】



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年4月16日(月)～平成30年4月22日(日)〔平成30年第16週〕の感染症発生状況

第16週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.35人と前週(5.22人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.86人と前週(2.54人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.56人と前週(2.89人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



～海外で気をつけたい感染症！～

海外では環境の変化などから様々な感染症にかかる可能性があります。まもなくゴールデンウィークが始まり、海外へ渡航される方も多くなりますが、滞在期間中に病気にかからないためにも、感染症に対する正しい知識や予防方法を身に付けましょう。

食べ物や水を介して・・・

- ＜注意すべき感染症＞
赤痢、腸チフス、コレラ、腸管出血性大腸菌感染症、A型肝炎、E型肝炎など
- ＜主な発生地域＞
世界各地(特に、水道設備が整っていない地域)
- ＜予防方法＞
- ・こまめに手を洗う。
 - ・生水、氷、生野菜は避ける。
 - ・十分火の通った物を食べる。
 - ・渡航前の予防接種(A型肝炎など)

蚊や動物を介して・・・

- ＜注意すべき感染症＞
マラリア、デング熱、狂犬病、鳥インフルエンザなど
- ＜主な発生地域＞
蚊：熱帯・亜熱帯地域など
動物：アジア、アフリカなど
- ＜予防方法＞
- ・長袖、長ズボンを着用する。
 - ・DEET、イカリジン成分を含む虫除け剤を使用する。
 - ・動物にはむやみに手を出さず、近寄らない。

人を介して・・・

- ＜注意すべき感染症＞
麻疹、風しんなど
- ＜主な発生地域＞
アジア、アフリカ、ヨーロッパなど
- ＜予防方法＞
・ワクチン接種
- 現在、沖縄県では台湾からの輸入例を発端とした麻疹の流行がみられています。ゴールデンウィークに旅行を計画されている方は、事前に沖縄県のホームページを御確認ください。

川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年4月23日(月)～4月29日(日)【第17週】及び4月30日(月)～5月6日(日)【第18週】の感染症発生状況
 第17・18週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。
 第17週は、感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数が7.92人と前週(6.35人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 第18週はゴールデンウィークで、多くの医療機関が休診であったため、ほとんどの疾患で報告数が減少しています。

★麻しんウイルス★
ハシカンくん



川崎市内で麻しん(はしか)の発生がありました！

市内において、今年初めて麻しん患者が確認されました。同患者は、4月に沖縄県で感染したと考えられます。
 現在、沖縄県では台湾からの輸入例を発端とした麻しんの流行がみられており、沖縄県内にとどまらず他県にも感染が広がっています。
 麻しん患者との接触の可能性があります。発熱、発疹などの症状がみられた場合は、必ず事前に電話連絡をしてから医療機関を受診しましょう。

麻しん(はしか)とは？

- 【感染経路】
空気感染、飛沫感染、接触感染
- 【潜伏期間】
7～18日(最長21日程度)
- 【主な症状】
風邪様症状で始まり、38℃程度の発熱が2～3日続いた後やや下降し、再び39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。
- 【予防方法】
麻しん含有ワクチン(MR等)の接種

麻しん7クケン接種の実施状況(生年月日別)

生年月日	定期接種の実施状況
昭和47年9月30日以前に生まれた方	定期接種は行われていません。
昭和47年10月1日から平成2年4月1日までに生まれた方	1回接種(昭和53年10月から施行)
平成2年4月2日以降に生まれた方	2回接種(平成18年4月から施行)

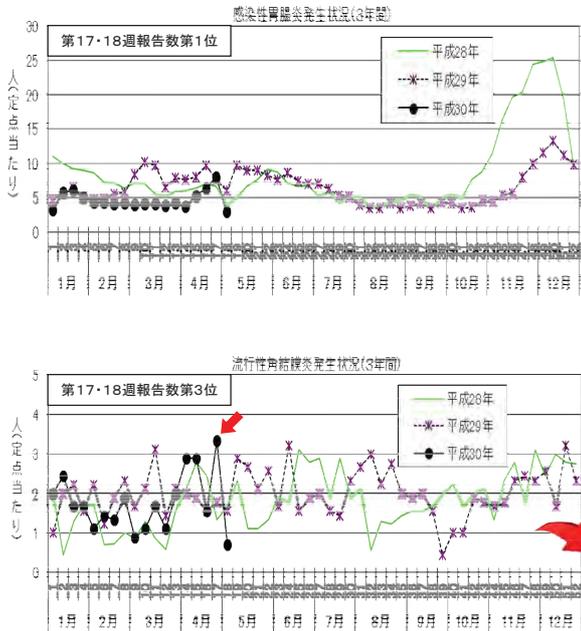
※全国的にも20～40歳代の報告が多いので、母子健康手帳等を確認し、2回接種していない場合は、麻しん含有ワクチン(MR等)の接種をお勧めします。

流行性角結膜炎の患者報告数が過去10年間で最多！

川崎市では流行性角結膜炎の患者報告数が著明に増加しています。平成30年第17週(平成30年4月23日～4月29日)の定点当たり患者報告数が3.33人となり、過去10年間で最多となりました。



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250



今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月7日(月)～平成30年5月13日(日)【平成30年第19週】の感染症発生状況

第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.57人と前週(3.00人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.59人と前週(1.60人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.22人と前週(0.71人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



伝染性紅斑の患者報告数が増加しています！

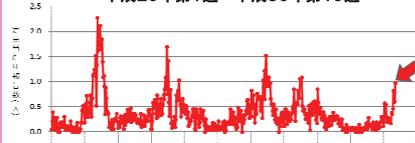
伝染性紅斑は一般的に「リンゴ病」とも呼ばれ、主に就学前後の小児を中心に流行する発疹性感染症です。
 川崎市においては、1～3年毎に流行がみられており、今年は第19週(5月7日～5月13日)の定点当たり患者報告数が0.97人となり、3年ぶりに患者報告数が多くなっています。また、年齢階級別では特に3歳～7歳の小児で報告が多くなっています。

伝染性紅斑とは？

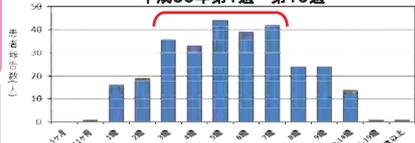
- 病原体 : ヒトパルボウイルスB19
 - 感染経路 : 咳や鼻水等による飛沫・接触感染
 - 潜伏期間 : おおむね4～15日
 - 症状 : 両頬にリンゴのような紅い発疹が現れ、続いて手・足等に網目状の発疹がみられる。成人では関節炎症状が出ることもある。
 - 治療方法 : 特別な治療法はなく、対症療法のみ
- ウイルス排泄量は、発疹が出る7～10日くらい前が最も多く、発疹出現時には感染力は消失しています。

伝染性紅斑は子どもの疾患ですが、大人が感染することもあります。妊婦が感染した場合、胎児に異常(胎児水腫)がみられることがあるため、流行期には、かぜ様症状のある人との接触は避けましょう。

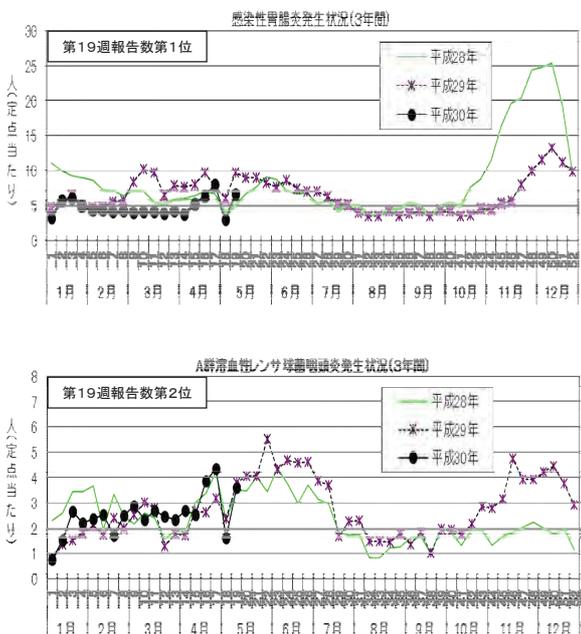
川崎市における伝染性紅斑発生状況(10年間)
—平成20年第1週～平成30年第19週—



川崎市における伝染性紅斑年齢階級別発生状況
—平成30年第1週～第19週—



発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター(問い合わせ先) 044-276-8250

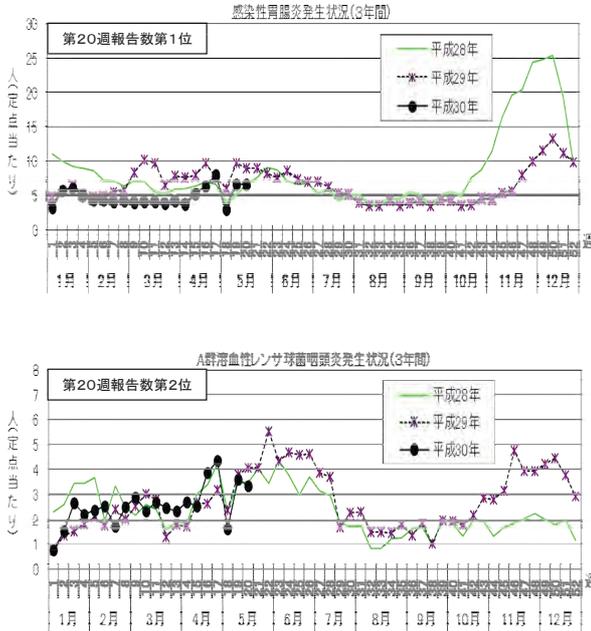


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月14日(月)～平成30年5月20日(日)〔平成30年第20週〕の感染症発生状況

第20週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.65人と前週(6.57人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.35人と前週(3.59人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は2.89人と前週(3.22人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



知っていますか？～レジオネラ症～

レジオネラ症は、水中や土壌中など自然界に広く生息しているレジオネラ属菌を原因とする感染症です。病型は2つに分類されますが、報告の大部分を占めるレジオネラ肺炎は進行が早く、意識障害等の重篤な症状を伴い死に至ることもあります。川崎市では現在、過去5年間と比較して報告数が多くなっており、平成30年第20週(5月14日～5月20日)だけで4件の届出がありました。また、男性の割合が高く、年齢階級別では60歳以上が大部分を占めています。

レジオネラ肺炎とは？

感染経路: レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(空气中に浮遊している粒子)を吸入することにより感染
※ヒトからヒトへうつることはありません。

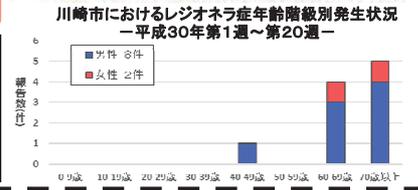
潜伏期間: おおむね2～10日

症状: 発熱、咳、呼吸困難、意識障害、下痢等



家庭内での予防方法

- ・浴槽のお湯や加湿器の水などは適宜入れ替え、清掃を行うなど清潔に保ちましょう。
- ・高圧洗浄等のエアロゾルが発生する作業ではマスクを着用しましょう。



川崎市 KAWASAKI CITY

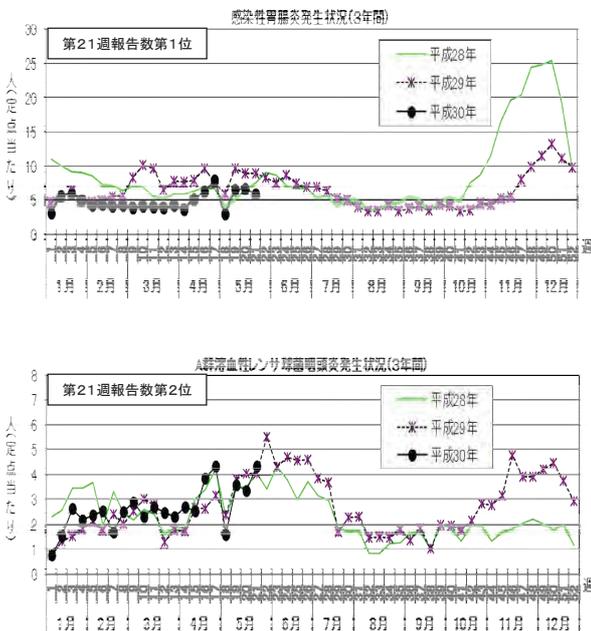
発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月21日(月)～平成30年5月27日(日)〔平成30年第21週〕の感染症発生状況

第21週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.95人と前週(6.65人)から減少し、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.35人と前週(3.35人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.89人と前週(2.89人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



気をつけたい感染症～百日咳～

百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の細菌感染症で、とまりにくい咳発作を特徴とします。かつては、乳幼児を中心に大きな流行がみられましたが、ワクチンの普及とともに患者数は激減しました。しかし、乳幼児期の予防接種の効果は4～12年程度で減弱するため、近年では青年や成人での患者数が増加し、平成30年1月1日から全ての百日咳患者の届出が義務付けられました。全国における平成30年第1週から第20週まで(1月1日～5月20日)の届出のうち、小学校高学年以上の報告数は全体の60.5%を占めています。

ワクチン未接種の乳児は重症化しやすいので、特に小さなお子さんがいらっしゃる家庭では咳等の症状に注意しましょう。

百日咳とは？

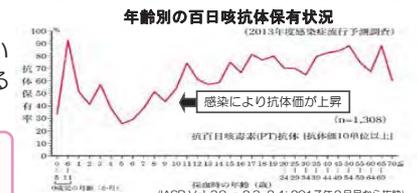
感染経路: 咳やくしゃみ等による飛沫・接触感染

潜伏期間: 約7～10日

症状: かげ症状で始まり、長く続く咳に加え、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作といった特徴的な症状を示す。

治療方法: 適切な抗菌薬での治療

予防方法: ワクチン接種



川崎市 KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター (問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年5月28日(月)～平成30年6月3日(日)〔平成30年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.22人と前週(5.95人)から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は4.30人と前週(4.35人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.67人と前週(1.89人)から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



流行性角結膜炎の地域流行に注意しましょう！！

流行性角結膜炎はアデノウイルスによる急性感染症で、まぶたの腫れや流涙を伴う赤みの強い結膜炎を呈します。

川崎市では、平成30年第22週(5月28日～6月3日)の定点当たり患者報告数が3.67人と過去10年間で最多となり、特に宮前区、麻生区では流行発生警報基準値(定点当たり8.00人)以上となっています。

目やにが出たり、強い目の充血などがみられた場合は、こすらないように注意して、早めに眼科を受診しましょう。

流行性角結膜炎とは？

感染経路: 接触感染(感染力が非常に強い)

潜伏期間: 8～14日間

主な症状: 流涙、結膜充血、眼脂など

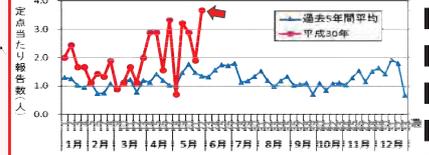
治療: 特異的な治療方法はなく対症療法が中心

予防: 手洗いの徹底、ウイルスで汚染されたティッシュペーパーなどの適切な廃棄、タオルの共用は避けるなど

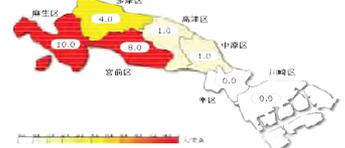
合併症: 乳幼児では細菌の混合感染により重症化し、場合によっては失明することもある。

※学校保健安全法では、症状により学校医その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで出席停止です。

川崎市における流行性角結膜炎発生状況
-平成30年と過去5年間平均の比較-



川崎市における流行性角結膜炎分布マップ(第22週)



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成30年6月4日(月)～平成30年6月10日(日)〔平成30年第23週〕の感染症発生状況

第23週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は7.92人と前週(7.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.76人と前週(4.30人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は3.00人と前週(3.67人)から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



過去10年間で最多の報告数～伝染性紅斑～

川崎市では今年の4月下旬以降、ヒトパルボウイルスB19を原因とする伝染性紅斑の患者報告数が増加しています。平成30年第23週(6月4日～6月10日)には定点当たり報告数が2.35人となり、流行発生警報基準値(定点当たり2.00人)を超えたため、市内に流行発生警報を発令しました。特に宮前区、多摩区、麻生区で報告数が多くなっています。

伝染性紅斑とは？

感染経路: 咳や鼻水などによる飛沫・接触感染

潜伏期間: おおむね4～15日間

好発年齢: 就学前後の小児

症状: 両頬に境界鮮明な紅い発疹が現れ、一般的に「リンゴ病」とも呼ばれる。また、成人では関節炎症状が出ることもある。

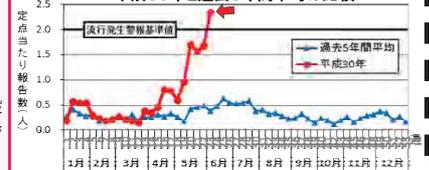
治療: 特異的な治療方法はなく対症療法が中心

妊婦が感染し胎児に感染が及ぶと、胎児水腫といわれる異常などがみられることがあります。

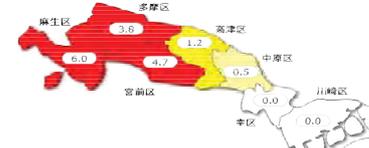
※胎児水腫とは、胎児の心臓や肺などに水が溜まったり、全身の浮腫などがみられる状態で、流産に至ることもあります。

流行期には、かぜ様症状のある小児との接触は避けましょう。

川崎市における伝染性紅斑発生状況
-平成30年と過去5年間平均の比較-



川崎市における伝染性紅斑分布マップ(第23週)



川崎市
KAWASAKI CITY

発行 川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健所・各区役所保健福祉センター
(問い合わせ先) 044-276-8250